

まもる一む福岡 の「交流・活動の支援」をお伝えする

環境活動 NEWS 7号

まもる一む福岡は、NPOや市民団体などによる環境活動を応援するため、交流やネットワークの場づくり、情報発信などの取組みを行っています。

「環境活動 NEWS 7号」では、2022年度前半に実施した交流イベントの様子等をご紹介します。今回も妖怪、子どもの居場所、ミツバチ、蝶など、多様なテーマのイベントが目白押しです。

特別講座
「身近で見かけるいろんな蝶」

ふくおか環境連絡交流会
「生きもの好きの子どもの居場所」

生きものと私たちのくらしトーク・カフェ 第1回
「妖怪だって生物多様性」

まもる一む福岡アドバイザーコラム 第3回
「手づくり展示は楽しい！」

特別講座
「博多で生きるミツバチ」

特別講座

2022年9月19日(月・祝)

「身近で見かけるいろんな蝶」

講師：小田切 顕一さん(九州大学大学院 学術研究員)

小田切 顕一さん



9月の特別講座は蝶がテーマ。九州大学大学院学術研究員の小田切顕一さんを講師にお招きし、**身近な場所で見ることのできる蝶**について、わかりやすく教えていただきました。

■ 知ってるようで知らない蝶の世界

蝶と言っても、だれもが知っている種類はモンシロチョウやアゲハチョウなど数えるほどです。ところが、小田切さんが活動する福岡市西区の^{あたらごやま}愛宕山だけでもなんと**42種類**もの多様な蝶が生息しているそうです。

一見同じように見えても異なる種類であることも多く、たとえば似たような黒いアゲハだけでも、クロアゲハ、カラスアゲハ、ナガサキアゲハなど何種類もあり、模様や形にちがいがります。なかには飛び方で識別できる蝶の種類もあるそうで、動画を使って教えていただきました。

このソテツの新芽もよく見ると蝶の卵があるんですよ



クロマダラソテツジミ

■ 生きた蝶をクローズアップ

後半には、デジタル顕微鏡を使って、前日につかまえてきてくださった**クロマダラソテツジミ**という蝶をみんなでじっくり観察しました。わずか0.4ミリの小さな卵や、小さな幼虫がソテツを食べる様子など、普段は見ることができない**小さな世界の映像は感動的**です。

最後の質問のコーナーでは、蝶を実際につかまえたり、観察したりするときに役立つお話をうかがいました。蝶をより身近に感じられる時間になったのではないのでしょうか。

「生きもの好きの子ども居場所」

ゲスト：亀井裕介さん（やながわ有明海水族館 館長）

環境活動や自然体験に関わる団体・個人を対象とした交流の場「ふくおか環境連絡交流会」。
ゲストに「やながわ有明海水族館」の高校生館長・亀井裕介さんをお迎えして、生きものや自然が好きな子どもや若者が、生き生きと楽しめる場を作るにはどうしたらいいのか考えました。



亀井 裕介さん

■ 現役高校生館長！ やながわ有明海水族館

やながわ有明海水族館（柳川市）は、有明海や柳川掘割の生きものたちを展示している、温かい雰囲気私営水族館。館長を務めるのが今回のゲストの亀井裕介さんです。亀井さんは小学生の頃から常連のお客さんとして、水族館に通っていました。中学生で副館長、高校2年生のときに館長に就任したそうです。



癒つよ子ども職員たち

講演スライドより。現在の子ども職員も、個性豊かな「癒つよ」メンバーなのだそう。

■ ユニークな「子ども職員制度」とは

同水族館には、「子ども職員」という制度があります。常連のやる気のある子が任命され、入館料が無料になる代わりに、水槽の管理などの仕事を行います。現在、小4～高2までの10人の子ども職員がいるそうです。

子どもにとっては水族館で働ける上、生きものについて学べるというメリットがありますが、1番の魅力は「生きもの好きの仲間ができる」こと。好きなものを語り合える仲間って、大事ですよ。

■ 自分の好きなものを伝えたい

環境啓発に携わる方からは、「子どもたちのコントロールはどうされていますか。生きもの好きのお子さんたちは我先に！となりがちでは？」という質問が出ました。亀井さんは、「大事なのは信頼関係。たまにちょっと前に出すぎてしまうのは『自分の好きなものを伝えたい』という想いがあるから。そういう子に子ども職員を任せてみると、すごく熱心に取り組んでくれたりする。」と回答。一見すると困った子どもが実は熱い想いを秘めているという、大人にとって耳が痛いお話でした。



生きもの好き同士の語り合える場があれば、子どもは必ず集まります



ホワイトボードは質問でいっぱい！

亀井さんの生きものへの造詣の深さから、生きものに関する質問も絶えず、交流会終了後も子どもたちに囲まれて質問を受けていました。まだ高校生だとは思えない立ち居振る舞いと、子どもたちへのやさしいまなざしが印象的でした。

「妖怪だって生物多様性」

ゲスト：早瀬 遼子さん（筑紫野市歴史博物館 学芸員）

早瀬 遼子さん



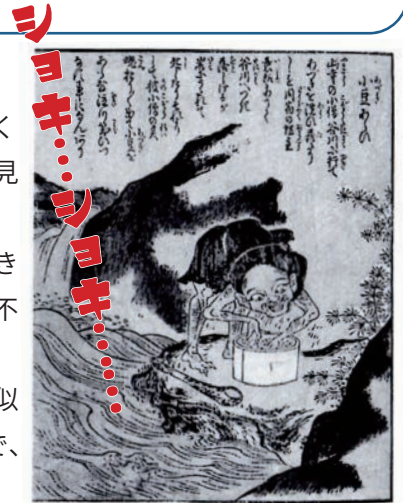
身近なテーマから生物多様性について考える「生きものと私たちのくらしトーク・カフェ」。今年度1回目のゲストは、妖怪に詳しい筑紫野市歴史博物館学芸員の早瀬 遼子さんをお迎えしました。

■ 妖怪はどうして生まれたの？

妖怪は、人間の正体不明なものに対する恐怖や不安から誕生しました。実体のよくわからないものや現象など「目に見えないもの」に名前を付け、姿を与えることで「見えるもの」として捉えようとしたのです。

たとえば、森の中で、どこからかともなく「ショキショキショキ……」という音がきこえる。でも、何の音だかさっぱりわからない。そんなとき、私たちは未知の音に不安を感じますよね。

そんな場面で生まれたのが、妖怪「小豆洗い」。未知の音が小豆を洗うときの音に似ていたことから名づけられ、右図のようにイラスト化され、物語がつくられることで、未知の音が意味のある妖怪の姿になっていきました。



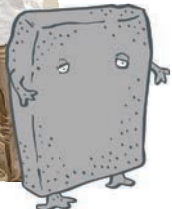
妖怪「小豆洗い」

(竹原春泉『絵本百物語』より)

■ 妖怪たちの行く末は？

社会の発展とともに人々から自然に対する恐れや畏敬の念がなくなったことで、段々と姿を消していった妖怪たち。妖怪たちの未来は、私たち日本人が、これからどのように自然と関わっていくのかにかかっているのかもしれませんが。そんな中で出た「これから妖怪はどんなところで生きていくのか」という質問。

早瀬さんのお答えは「インターネットの世界で生きていくのではないか」という意外なものでした。その時代の人々が不安や恐れを感じる場所から出現する妖怪たちは、住みかを変えながら、これからもたくましく生き残っていくようです。



まもる一む福岡アドバイザーコラム第3回 志賀 壮史

「手づくり展示は楽しい！」

まもる一む福岡の奥の方、「多目的スペース」の壁に少し変わった展示があります。手書きの説明や写真、手作りの教材を入れ込んだダンボール箱を積み上げたものです。

ダンボール箱に黒板になる塗料を塗って白いペンで説明を書いたり、針金と紙粘土でセアカゴケグモや人間を作ったり、裁縫が得意な友だちにウナギを縫ってもらったりしました。

今時はもっとキレイな展示やハイテクな教材が多いと思いますが、手づくりの展示も違った味わいがあるってよい不是吗？（笑） 少なくとも作るのはとても楽しいです。

以前、まもる一む福岡で行った講座で取り上げた「ウナギ」「セアカゴケグモ」「マダニ」「ニホンミツバチ」の四つの生きものについて紹介しています。ぜひご覧ください。



NPO法人グリーンシティ福岡 志賀壮史

「博多で生きるニホンミツバチ」

ゲスト：吉田 倫子さん（NPO法人博多ミツバチプロジェクト 代表理事）

吉田 倫子さん



ミツバチや昆虫が好きな人、ハチミツや養蜂に興味がある人を対象に、都市部でも懸命に命をつないでいるニホンミツバチの姿を知ってもらおうと、NPO法人博多ミツバチプロジェクト代表理事の吉田倫子さんを講師にお招きしました。

■ ニホンミツバチの新鮮な「巣板」に感動

まず、都市部での採蜜活動の紹介やニホンミツバチの暮らしについてお話しいただいたあと、ミニチュアの巣箱や本物の「**巣板**」（層状になった巣の一枚一枚）を使って、巣の構造や、採蜜のやり方を教えていただきました。デジタル顕微鏡で拡大したり、実際に手にとってもらいながら巣板を細かく観察しましたが、朝に採れたばかりの新鮮なはちみつをついた巣板だったので、参加者からは「食べたかった〜」という、ため息まじりの声ももれていました。



採りたての「巣板」は良い香り！

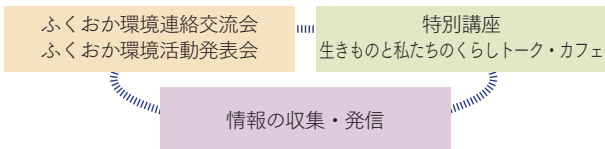
■ 都市の生態系はとても豊か

都市の生態系はとても豊かで、**受粉が必要な植物がたくさんある**そうです。一人の小学生から出た「人はミツバチからハチミツをもらって、ミツバチには何かをプレゼントしているの？」という質問には、ほかの参加者からも思わず「やさしい考え方。大事だね〜」という声があがり、会場があたたかい空気に包まれました。養蜂を始めたことで知った、生きものと私たちの暮らしとのつながりを広めて、**人と生きものが共存する社会**を目指していきたいという吉田さん。これからの活動にも期待したいですね。

福岡市保健環境学習室「まもるーむ福岡」では、NPO や市民団体などによる環境活動を応援するための交流やネットワークの場づくり、情報発信などの取り組みを行なっています。環境活動に関心のある皆さん、活動に取り組む NPO 等の皆さん、ぜひお気軽にご相談・ご参加ください。



環境活動交流支援の取り組み



福岡市保健環境学習室 **まもるーむ**福岡

MAMOROOM FUKUOKA

〒 810-0065 福岡市中央区地行浜 2 丁目 1-34

☎ 092-831-0669

開館 10:00 ~ 17:00

休館日は月曜日・火曜日（休日の場合はその直後の平日）
年末年始（12月28日～1月4日）